



社会医療法人近森会

発行

2015年8月25日

びろっば 9

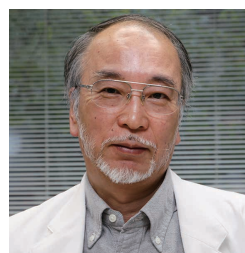
Vol.350

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 ☎780-8522 tel. 088-822-5231 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

近森リハビリテーション病院の新たな船出

近森リハビリテーション病院

院長 佐々木 司



平成27年8月、江ノ口川の川面に映る地上8階建ての美しい新病院が完成した。高知市街中心に位置し構造的には南海トラフ地震に耐えうる免震構造で、津波にも備え居住空間の病棟は3階以上に置いた。

旧病院の1.5倍の面積を有し、3階から6階までの病棟は重度の患者さんの入浴のためにリフトを設置。また、病棟内訓練室を新設し、棟内生活での自主訓練の充実を図るなど、患者さんが快適に治療に専念し、そこで働く職員が働きやすい環境空間を造った。

来院する人の利便性を図り、1階には駐車スペースを取り、ラウンジ、売店、受付を置いた。2階は外来と各種検査室、リハビリテーション室とし、出入りしやすくなっている。この階にはリハビリテーションの治療効果を上げるため、より科学的な評価とその応用を目指し「3次元トレッドミル歩行分析システム」「天井吊り下げリフトでの免荷歩行」「筋電図・エコー検査」「嚥下造影室」

「CT・レントゲン室」などを設置した。

当院は主として中枢神経系疾患による障害のリハビリテーションを行っているので、将来的にはBMI等を利用したニューロ・リハビリテーション導入を視野に入れ予備の部屋も用意している。7階には栄養科と薬局が入るが、主に職員が休憩し議論し勉強するためのスペースとしてスタッフルーム、職員食堂、カンファレンス室、会議室、図書室、医局等を配置した。8階には患者さんの憩いの場である屋上庭園を造り、災害に備えての備蓄倉庫も置いた。

「新しい革袋には新しい酒を」と云われているが、今春、当院に若き新人医師2名を迎え入れることができた。今後彼らが年を経て、熟成し素晴らしい銘酒に生まれ変われるよう、職員一同気持ちを新たに未来に向かって船出したいと思っている。

ささき まもる



新・近森リハビリテーション病院

2階



2階 外来、リハビリテーション室、検査室、訪問リハビリテーションちかもり

2階中央には外来を配置し、リハビリテーション室への移動が簡便になりました。

理学療法室には歩行を分析するためのトレッドミル三次元歩行分析、安全な歩行を可能にする天井走行式リフトを設置しています。作業療法室には個別訓練室、ADL 訓練室、評価室などを配置し、自宅環境に近づけるようにしています。また高次脳機能障害のパソコンを利用した訓練や、上肢のトレーニング用に集中できる環境を用意した高次脳機能訓練室があります。言語聴覚療法室、臨床心理室は眺めの良い窓を広く取った個別訓練室があります。

1階



1階 総合受付、会計、ラウンジ、相談室、駐車場

江ノ口川に面した北側が正面玄関です。1階には、総合受付、会計、医療相談室を配置し、福祉用具や日常生活品を取り扱う売店と、小さなラウンジがあります。

1階の3分の2を駐車場が占め、コインパーキング形式の駐車場になっています。患者さんの送迎などは無料で通行が可能です。今までどおり近森病院の駐車場もご利用いただけます。

平日の日中は南側玄関もご利用いただけます。

病院周辺の駐車場案内



近森病院へは近森病院駐車場 **P1 3 5 6** をご利用ください。

一般車は**P1**駐車場をご利用ください。
車高155cm以上のお車は**P3 P5 P6**駐車場をご利用ください。
ご利用の際は係員がご案内いたします。

P1	軽・普通車	車高 1.5m まで
P3	ハイルーフ	車高 2.3m まで
P5	ミドルルーフ	車高 1.8m まで
P6	ハイルーフ・バス・トラック	車高 2.0m まで

各階フロア図

7階には臨床栄養部、薬剤部があります

8階には屋上庭園があります

1階 ラウンジ



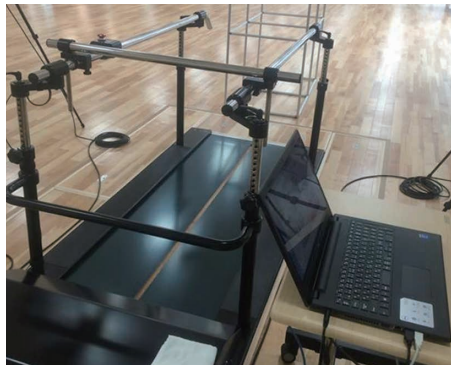
2階 外来受付



2階 外来診察室



2階 リハビリテーション室
トレッドミル



3～6階 プライバシーを配慮した
4人床の病室



3～6階 談話室を兼ねた食堂



3階

4階

5階

6階



3階—6階 病棟

病室は4人床でもプライバシーが保たれるように間仕切りのように家具を設置し、照明も工夫をしました。各部屋にトイレを設け、そのほかにもトイレを増設しています。1病棟45床に23箇所のトイレをつくりました。江の口川に面した談話室を兼ねた食堂は、窓が大きく、一日や季節の変化を感じられます。浴室も5箇所配置し、重症の患者さんも安楽に浴槽で入浴できるように天井走行リフトも導入しました。

作業療法や言語療法を行うための個別訓練室と、平行棒やマットのあるリハビリテーション室を病棟内に設置しました。この病棟で、訓練のできる能力と実際の生活でしている能力を近づけていけるようになればと考えています。

鏡視下手根管開放術の話

近森病院整形外科

統括部長 衣笠 清人



今回からは関節鏡を使った手術の話をしたいと思います。まず手根管症候群という疾患をご存知でしょうか？手首の部分には骨と靱帯で作られた手根管というトンネルがあり、手指の屈筋腱9本と正中神経が通っています。様々な原因でこのトンネルが狭くなり、正中神経の圧迫障害（手指のしびれ感や運動障害）が出現する病気です。

治療はこの部位を横切る横手根靱帯を切離し、手根管を開放してやることで、以前は手掌部を切って直視下に行っていました。

人間の手は精密機械と言われるほど繊細にできており、手掌部の皮膚もまたデリケートなためできるだけメスを入れたくない部位です。そこで1990年代後半に鏡視下手根管開放術（ECTR）が始まりました。これは手首

皮線の2.5cm近位に2cm程度の小切開を加えそこから横手根靱帯下に関節鏡を挿入して、その鏡視下に特殊なフックナイフで手根管内から靱帯を切離する方法（奥津法）です。

当院では1997年7月に当時の岡山大学整形外科助教授橋詰博行先生（“ゴッドハンド”としてテレビでも紹介されましたネ！）のご指導の下、第1例目の手術を行いました。以来初回手術においてはずっと本法を施行しております。

大事な手のひらにはキズはなく、また手首の傷跡も1年もすればほとんどわからなくなります。そして直視下手術と同等の回復が得られる。すばらしい進歩であると言えるでしょう。

きぬがさ きよと

9月の歳時記

コスモス

近森オルソリハビリテーション病院
5・6階病棟看護師 新谷幸代

コスモスは別名「秋桜」ともいう。大輪に咲くコスモスを見かけると、思いがけず立ち止まり見惚れてしまう。



コスモスは色により花言葉があり、赤は「愛情」「調和」、白は「優美」、ピンクは「純潔」、色のイメージにピッタリだ。

越知町では毎年コスモスマつりをやっている。馬車に乗り、コスモスに癒されに行ってみてはどうだろうか？

にいや さちよ

絵も筆者



近森看護学校通信 4

平成28年度入学生募集のお知らせ

今年の4月に開校し、第一期生を迎えてはや半年が過ぎました。

来年は新校舎（右写真・現近森オルソリハビリテーション病院）に移転し、益々充実した教育環境で新入学生をお迎えする予定です。本校で夢に向かって一緒に頑張りませんか。



オープン
スクールは
9/6（日）、11/1（日）
に開催します。



● 平成28年度の入学試験について ●

	出願期間	試験日	募集人員
推薦入試	平成27年9月17日（木） ～10月5日（月）	平成27年10月18日（日）	15名
一般入試（一次）	平成27年11月16日（月） ～11月30日（月）	平成27年12月13日（日）	25名
一般入試（二次）	平成28年1月19日（火） ～2月1日（月）	平成28年2月14日（日）	若干名

※学生募集とオープンスクールの詳細については、本校のホームページまたは事務局までお問合せ下さい。【問合せ先】TEL. 088-871-7582（代）近森病院附属看護学校 事務局

「寄り添うケア」と「治療サポート」

HCU(High Care Unit) は昨年度の病院の引っ越しに合わせ再編成されました。

近森病院 HCU
看護師長 尾知 美穂



HCU は、ベッド数 16 床で、呼吸器、循環器、消化器、外傷、手術後等多種多様な疾患の患者さんが入院しています。患者さんはさまざまな監視モニターや点滴ライン、人工呼吸器等機械類に囲まれた特殊な環境下で入院となります。

そのため、看護師は幅広い知識や観察力が求められます。患者さんの変化に早期に気づき対応し、早期に回復出来るよう安全、安楽な看護が提供でき

るよう取り組んでいます。

今年度の病棟の目標は「患者さん一人一人に根拠のあるケアの実践ができる」です。医学的な視点で身体面のアセスメントをするとともに、患者さんが入院される前の生活状況を把握し、退院後の生活を共に見据え、それぞれの状況に応じて看護を提供します。他職種との連携により、患者さんの栄養管理や早期離床、合併症の予防、方向性の検討を行い、一般病棟にその情報を伝達し、継続した看護ができるよう努めています。またコミュニケーションを積極的に図り、患者さん・ご家族の思いを汲んだケアにも取り組んでいます。

スタッフは勤務時間内は多大な緊張感のなかで業務にあたっていますが、笑顔を忘れず、患者さんとそのご家族の気持ちに寄り添ったケアと治療のサポートができるよう、日々努力しています。

おち みほ



「PS 通信」 3

開催のおしらせ !! 「PS アワード 2015」



今年も「PS アワード」の季節がやってきました。

「PS アワード」は、近森会で働く職員のなかでいちばん輝いていると思える方に投票していただき、多くの投票が集まった方を表彰して称えようという年ごとの企画です。昨年はたくさんの投票をいただき、素敵な職員の方々に会うことができました。

今回もみなさんの周りにいる、「この人の笑顔はいつも素敵だな」、「この人は患者さんへの対応が素晴らしい!」、「自分が入院したら、この人に対応してもらいたいな」というような方をぜひご推薦ください! 投票方法などはのちほど詳しく掲示板などでお知らせいたします。

近森リハ今昔



近 森 正 幸

近森リハビリテーション病院（以下近森リハ）が本院の南、江ノ口川をはさんで対岸に新しく完成し、この 8 月 29 日から新たにスタートすることになった。

近森リハは平成元年 12 月に、温泉リハビリがほとんどであった当時、患者さんを地域に返すという都市型のリハビリ病院として石川誠先生（現・輝生会理事長）によって開設された。

この近森リハの実践をもとに回復期リハ病棟の診療報酬が創設され、急性期から回復期、維持期のリハビリテーションの流れが確立され、日本の医療に大きな影響を与えている。スタッフの英知を集めた右と左の麻痺用の二つの浴槽、車椅子で入れるトイレや便器の背もたれ、使いやすい床頭台や低床ベッドなど、障害者が自立するためのハードが全国のリハ病院の基本となった。

三代目の栗原正紀院長が長崎でリハビリテーション病院を開設するために、1 年ほど前から 75 名ものスタッフの研修を近森リハが受け入れた。この研修をきっかけとしてスタッフの充実と質の向上が図られ、現在は開設当初の 3 倍以上の専門性の高いスタッフが働いてくれている。

新しい近森リハは快適な病室や広々とした訓練室を擁し、先進的なリハビリテーションを積極的に取り入れ、若いパワーを発揮して、障害のある患者さんがこれまで以上に多く、住みなれた地域に帰っていただけるよう願っている。

理事長・ちかもり まさゆき



調剤室では常に処方せんの向こうの患者さんを 思い浮かべて

薬剤部
部長 筒井 由佳

電子カルテの導入により、薬剤師の業務は大きく変化・発展することができました。今では薬剤師が服薬指導や薬剤管理を行ううえで、電子カルテ上での他職種との情報共有は必要不可欠なものになっています。

とくに患者さんから離れたところにある調剤室にしながら患者さんの状態や医師の考えなど多くの情報が得られるようになったことは、調剤の質に変化をもたらしました。

電子カルテを利用することで処方上の問題点が迅速に解決でき、薬剤の使用による効果や副作用、検査値などの情報を基に投与量や投与方法について、医師と相談することも可能になりました。入院前の内服薬の情報が、薬剤や剤型の選択に活かされることもあります。

調剤室では常に処方せんの向こう

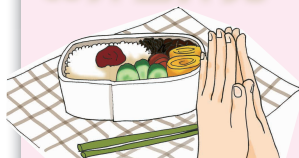
の患者さんを思い浮かべ、正確に、安全で有効性の高い薬剤を提供することを心がけています。

つつい ゆか



近森病院薬剤部の調剤室

お弁当拝見 36 必殺オムライス



近森リハビリテーション病院
4階東病棟
介護福祉士主任 福井 幸子



現在は、毎日子供と自分のお弁当を作っています。レパートリーの少ない

私にとっては、毎回苦戦です(笑)

時に「しまった……、おかずがない」などで困った時によく作るのが、「必殺オムライス」。冷蔵庫にある材料で間に合うので、これにはよく助けられています。つい作りすぎて子供に「ごはん多すぎ」と注意されます。

ふくい さちこ

リレー エッセイ



うつわ集め 近森病院 ER 看護師 中川 絵美

最近うつわを集めています。少しずつ買い揃え、だいたい数も増えてきました。買うときにどんな料理にあうかな、どんな盛り付けがいいかなと悩みながら選んでいると、あっという間に2時間くらいは過ぎてしまいます。

お気に入りには竹の蒸籠(せいろ)と小鹿田(おんた)焼のお皿です。蒸籠は蒸すときに竹の独特な香りに包まれて、野菜やお肉がふっくら蒸されて栄養満点で脂も落ちてヘルシーです。こちらは須崎市の竹虎というお店で買いました。竹素材なので少



蒸籠

し手入れがいりますが、よく食卓に登場しています。

小鹿田焼は九州大分の山の中、日田地方の伝統民芸です。飛びカンナや刷毛目という独自の紋様が特徴的で、江戸時代から300年という長い歴史がある民芸品ですが、なんだか近代的なモダンな雰囲気も持っています。和食、洋食やイタリアンなど、どんなお料理にも合って、重宝しています。



小鹿田焼のお皿

これから集めたいのは、沖縄のやちむんという焼き物や栃木県の益子焼など、全国にはまだまだ素敵な窯元が多くて集めがいがあります。

ただこの趣味の難点は、割らないように食器洗いにドキドキすることでしょうか。お皿に見劣らないように料理の腕も上達していきたいです。

ながわ えみ

医療の質向上に貢献したとして 近森病院が感謝状をいただきました

機構との関わり

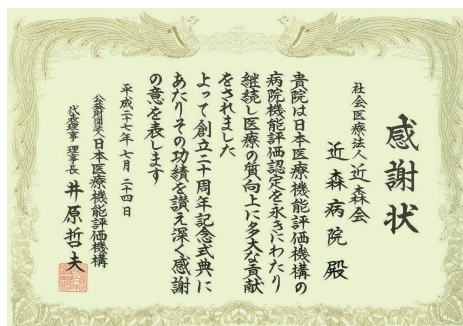
近森病院
副院長 北村 龍彦

平成 16 年（2004 年）から認定病院患者安全推進協議会のなかで厚生労働省科学研究事業の医療記録検討部会、Chart Review 検討会の委員として 2 年間活動し、分担研究報告書を作成しました。

また本年 3 月まで 10 年間感染管理部会長としてコアメンバーとともに部会やセミナーの開催、感染管理に関するツール集の上梓、病院間で感染管理の相互チェック（ピアレビュー）を行い、手引書を上梓しました。

協議会全体の活動を支える運営部会や幹事会、運営委員会の委員も務めさせていただき、貴重な経験を積ませていただき感謝しております。

きたむら たつひこ



15 年間で 71 の病院へ

近森会グループ
常務理事 川添 昇

本審査開始前から評価担当させていただき、以降約 15 年間で 71 の病院を審査訪問しました。

訪問先で不躰な質問をして多々で迷惑をかけたことと思いますが、このことで病院運営にたいへん役立ったと日本医療機能評価機構には感謝の念で一杯です。

かわぞえ のぼる

ハッスル研修医

CHIKAMORI-RESIDENT を背負って



初期研修医 片岡 エマ

近森での研修が数カ月過ぎ、少しずつ新しい環境にも慣れてきたところです。たくさんの職員の方々や患者さんと出会うことで、さまざまな刺激を受け、日々の活力になっています。

学生の時に憧れていた CHIKAMORI-RESIDENT の文字の入ったスクラブ

で研修をさせていただいていますが、近森病院の名前を背負っているということを常に念頭に置き、責任のある行動を取らなければならないと思っています。

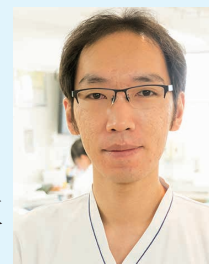
まだまだ失敗することがあり、たくさんの方に迷惑をかけていると感じていますが、熱心なご指導をくださる先生方や経験豊富な医療スタッフの方々に支えられており、恵まれた環境で研修させていただいていることに日々感謝しています。「一人ひとりに誠実に、一日一日を確実に」という言葉をモットーにこれらの研修生活も充実させたいと思っています。

また、これからも多くの方々との出会いを大切にしたいと思っていますので、病院で見かけたらどんどん話しかけていただけたらと思っています。

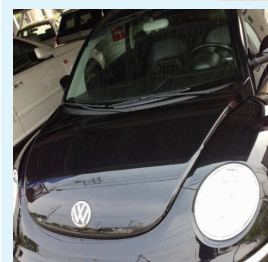
かたおか えま

私の趣味

フォルクスワーゲン ニュービートル



近森病院
北館 3 階病棟
看護師
小松 一臣



自分は今まで車というものに余り興味がなかったのですが、ふとテレビを見ている時に乗ってみたい車「フォルクスワーゲンのニュービートル」に出会いました。その車を購入するため就職時より日々貯金をしてきました。折角の外車購入ということで左ハンドルに拘った結果、目当てのものを探し当てるまでに 1 年ほどかかりましたが、今年 5 月ついに購入することができました。

今まで国産車にしか乗ったことがなかったため、細かい操作の違いに慣れるまで（ウィンカーが左側だったりとか）苦労しました。しかし、日勤の時や明日が夜勤の時などには夜のドライブに出かけるなどして、連日乗っていたため現在では大分新しい車にも慣れてきて、休日には高速道路を使い隣の県まで行くなど、良い気分転換になっています。また、夜勤明けには自宅へ帰った後、洗車をするのが日課となり、新しい趣味ができて日々充実した生活を送れています。

こまつ かずおみ

医療職よさこいチームの一体感

よさこい実行委員会代表

地域医療連携センター／医事課主任 松本 圭司



チーム「ちかもり」は、今年も「縦横夢人」をテーマにスタッフを含めた総勢 115 名が参加しました。今年から近森病院附属看護学校の学生も参加した新生ちかもりとして一体感を合言葉に思いっきり楽しみました。

炎天下でしたが、急性期病院の看護師による最高の救護班を中心に参加者全体でお互いの体調を気遣い、支え合っている姿を見て、まさに医療多職種で構成された最高のチーム

であると再確認できました。

参加したみんなが、よさこいで出来た繋がりを大切に、これからも楽しい夏を過ごした仲間として仲良く関わりあっていくことができると思います。各演舞会場で多数の職員の方々や去年までにちかもりで踊ってくれた踊り子さんとお会いすることができました。ご声援本当にありがとうございました。

まつもと けいし



よさこい祭



今、心臓治療が変わる！

総務課広報

主任 鍵本 由紀



今回は近森病院がTAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）実施施設として四国で初めて完全独立施設となった機会に、最新の心臓治療に対する理解を広め、より健康に関心を持っていたくことを目的に企画いたしました。

ハートチームを中心に「今、心臓治療が変わる！」をテーマに開催した講演会に300名を超える参加があり、県民の関心の高さがうかがえました。

まずは実際の心臓疾患症状を寸劇

にて、次に窪川医師による疾患の説明、入江医師によるTAVIの実際を手

術映像とともに紹介しました。最後はTAVIを受けた患者さん二人のご厚意により、TAVIの感想や症状の変化についてお話いただきました。開胸せずに行えるため、体への負担が少ないことが何よりのメリットと感ずる内容でした。寸劇、画像、映像、加えて体験談まで聴くことができ、より身近に感じてもらえる講座となりました。

かぎもと ゆき



▲ロビーにはパネル展示を



▲「体験者は語る！」より



第6回 心臓血管ウェットラボの開催が決定しました。



今年の心臓血管ウェットラボの開催が決定しました。豚の心臓を使いリアルな体験ができることから毎回、県内外からの参加者が多く、すぐに定員オーバーとなる人気の講演会(実習編)です。

医師はもちろん看護師、薬剤師、事務など職種にとらわれずに多くの医療スタッフが参加します。

参加は事前申込が必要となります。応募者多数の場合は抽選とさせていただきますので、ご了承ください。

開催日時や場所

日時 11月23日(月・祝)
10:00～15:00(予定)
場所 近森病院管理棟3階大会議室
申込期間 10月1日(木)
～11月2日(月) 正午まで
申込方法 メールまたはFAX
参加費 1000円(昼食付き)
詳しくはホームページをご覧ください。

テーマ 心臓の解剖と心臓治療

〈実習項目(例)〉

- ・解剖全般
- ・病理
- ・PCI
- ・アブレーション
- ・大動脈ステントグラフト
- ・冠動脈バイパス術
- ・人工弁置換術
- ・経カテーテル大動脈留置術(TAVI) など

工事のお知らせ

近森オルソリハビリテーション病院移転に伴う改修工事が9月1日より旧リハ病院で始まります。周辺住民の方々や患者さんにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

夏祭り 近森オルソリハビリテーション病院

空手の披露や出店など、大盛況でした！



近森病院での一カ月

AOTrauma Fellowship Host Center で研修に来ました。

私は、世界各国の外科医や看護師に対して留学・研修の機会を提供している、骨折治療研究グループ“AO”の制度を利用し、日本へ留学することになりました。日本の唯一のAO認定施設「近森病院整形外科」で研修させていただくことは、大変光栄でした。統括部長の衣笠医師は、日本で有名な整形外科医の1人であり、喜んで私の研修を受け入れてくださいました。

近森病院に初めて来たとき、きれいで設備の整った病院であることにとっても感動しました。私は台湾で准教授をしていますが、それでも、多くのことを勉強させていただきました。技術的なことに加えて、仕事に対する姿勢なども学ばせていただき、大変貴重な経験になりました。衣笠医師は常に、医師一人ひとりに対し、最善を尽くし完璧にやりとげることを求めます。あらゆ



陳 崇 桓
チェン チュンワン

ることを完璧に仕上げるというスピリッツは、仕事において、特に手術では、本当にすばらしいことです。さらに整形外科の他の医師たちも、とても親切にしてくださり、積極的に知識や手技を共有していただきました。こう

いった環境を作ってくくださったおかげで、本当に多くのことを近森病院で学ぶことができました。

プライベートでは、よさこい祭りが大変おもしろかったです。私は、この祭りはとても特別なものだと感じました。なぜなら、だれでも参加できる祭りだからです。小さい子どもでも、車イスに乗っていても、周りの人々が当たり前のようにサポートし、踊りに参加していました。私は、この光景を見て、深く感動しました。ダンスの得意な人だけのためではなく、だれでも参加できる祭りが本当の祭りだと思います。

最後に、近森病院のみなさんに助け

ていただきながら、多くのことを勉強させていただいた経験は、生涯でもっとも心に残るものになりました。



職員旅行

今年度も6月から職員旅行が始まりました。今回は北海道、沖縄、東京ディズニーランドの紹介です。

▶南の島、沖縄で

▼北海道の雄大な自然のなかでゴルフ



◀夏休み、親子で東京ディズニーランド▶



よさこい訪問

近畿大学と丑之助学園の近森病院への「よさこい訪問」で賑わいました。



● 参加者 ●

心臓血管外科部長 入江博之、心臓血管外科 衣笠由祐
 近森病院看護部長 吉永富美、手術室 楠瀬由美、
 医療福祉部 秋田紗希 施設用度課 宮下公将

● 訪問先 ●

ニューヨーク・米国胸部外科学会 (AATS) Mitral conclave
 ウィスコンシン州・UW (ウィンスコンシン州立大学病院)
 St. メアリー病院 (Private Hospital)

アメリカのソーシャルワーカーから 学んだこと

近森病院医療福祉部
秋田 紗希



今回アメリカ研修の話をいただき、「英語も話せないのにどうしよう……」と、最初はなかなか決断ができずにいましたが、所属長からの後押しもあり、研修に踏み切ることができました。

見学をさせていただいたウィスコンシン州立大学病院、St. メアリー病院、どちらの病院でもソーシャルワーカーから話を聞く機会がありました。共通していたのは入院患者さんへの早期介入に取り組んでいることです。入院後24～48時間以内には患者さんやその家族と面接、生活環境などを確認し、アセスメントを行います。

当院でも入院後早期に患者さんとそのご家族に介入していくことを目標としているため、介入の方法については共通する部分だと感じました。また、いずれの病院にも20～30名ほどのソーシャルワーカーが在籍しており、その重要性の高さも感じました。

医療保険制度は日本とは異なり、100種類もの保険会社が存在し、それぞれ保険でカバーできる治療範囲が違います。制度は違いますが、医療費に関する支援をすることも共通していました。

ソーシャルワーカーから話を聞きもっとも印象に残ったのは、早期介入の大切さです。患者さんが抱える不安やニーズをいち早くキャッチすることで患者さんが安心して治療を受け、安心して退院し転院していくことに繋がります。これからも患者さんやそのご家族への早期介入に努めていきたいと思いました。

言葉の壁はあったものの、海外のソーシャルワーカーの話を聞くことは滅多にない機会であったためとても貴重な体験でした。今回の研修で受けた刺激を今後の仕事のエネルギーへと変えていきたいと思います。

あきた さき

夢や目標のある 病院づくり

診療支援部施設用度課
宮下 公将



今回の出張ではウィスコンシン州立大学病院の甲元拓志先生をはじめ、さまざまな方々にお世話になりました。また職場を長い間留守にさせてもらったことについて、あらためて感謝しています。

「アメリカンドリーム」という言葉があるように、壮大なビジネス・建造物・文化活動などがダイナミックな投資や寄付により実現し、さらに良いものが生まれていく好循環を目視してきましたが、医業も例外でなく、良い病院が寄付を受けることは当たり前で、今回見学したウィスコンシン州立大学病院とSt. メアリー病院にも寄付基金がありました。テキサス州の公立病院はなんと収入の三分の一が寄付だそうです。

魅力的な方もたくさんおられ、自分の目標をいきいきと話してくれる医療従事者と会えたことは大変貴重な経験となりました。認定看護師など学習できる環境、またその努力をやりがいに変えてくれる環境が整っているため、国境を越えて優秀な方々が集まっていました。

アメリカばかりがいいように書きましたが、日本にはた

例えば国民皆保険により誰もが医療を受けられるような助け合いの精神が具体的に制度化されていることや、オペにおいてはその緻密さやスタッフの集中力の持続はアメリカではとても真似できない（オペが長すぎるとスタッフにため息をつかれる……とか）という話を現場で聞きました。

日本の良さと、フリーダムとフレキシビリティを掲げるちょっとアメリカン？な近森病院の良さを融合し、夢や目標のある病院づくりの一翼を担えるよう、今回の経験を今後につなげていきたいと思います。

みやした まさゆき





ウィスコンシン州立大学心臓血管外科甲元拓志先生講演 「米国ウィスコンシン大学での経験」

近森病院心臓血管外科

部長 入江 博之

ウィスコンシン大学には、米国病院見学ツアーで過去3回訪問させていただいております。見学の目的はそれぞれ、手術と集中治療部、病院システム、また、今年はNP、PAとTAVIでした。

今回やっと当院に甲元拓志先生をお招きすることができました。

お話は、NP、PA制度で全米でも先端を走っているウィスコンシン大学での現状、特に、院内に350人いるPAについて詳しくお話しをしていただきました。

また、3年前から始めたTAVIの苦労話もして下さいました。当初の100例は順調だったが、執刀医の変更時期にあわせるかのように、重篤な合併症



が3例起こったとのことでした。さまざまな経験をもとに貴重なお話をいただきました。いりえ ひろゆき

● 新シリーズ ● 近森卒業生のいま 平成17年度初期研修医2

昨年研修医10周年同窓会が開催されましたが、先日就職10年の節目ということで職種を問わず近森同期会を企画しました。懐かしいメンバーも集まり、楽しい宴となりましたが、10年経つと皆それぞれの職場の第一線で頑張っており、負けずに頑張ろうと初心に戻ることができました。

思えば10年前、早く一人前になりたく仕事を覚えようと必死になって

ネクストステージへ

いた自分を思い出します。ここまでやってこられたのもご指導いただいた先生方、コメディカルの皆さんのおかげであり、ほんとうに感謝しております。

現在は救命救急センターでERをメインに診療していますが、今後は病棟での管理にどう関わっていけるかが課題だと考えています。また県からの要請を受け、ドクターヘリでの診療にも携わる予定です。

みき としふみ

近森病院救命救急センター
科長 三木 俊史



ワイン講座 ● 35

ぶどう品種を知り、個性を探る 白ぶどう その12

イタリア篇 モスカート

モスカート種の原産地はギリシャ。ムスク（じゃこう）臭があることからその名が付いたと言われています。現在ではイタリア全土で栽培され、この品種から造られるタイプは、辛口から、ほのかな甘口、極甘口。そして微発泡性のワインまで。

日本では、マスカット（マスカット・オブ・アレキサンドリア）の一種で、イタリア産マスカットをモスカートと区別して呼ぶことが多く、主にピエモンテ州で生産されています。

イタリアワインで、カジュアルで親しみやすいワインと言え、このモスカート種を使って作られた、発泡性のアスティ・スプマンテやモスカート・

モスカート・ダスティ／サラッコ／イタリア、ピエモンテ州●モスカートのお手本と言われるほどで、果実味豊かで、白い花などの香り、非常にアロマティックで、自然な甘みと酸味が見事なまでに調和。軽やかでとてもフレッシュな味わい。

ダスティが挙げられます。共通する特徴は、マスカットやバラを思わせる芳香をそのまま瓶に閉じ込めたようなワインでイタリア固有のものです。

双方、果汁に含まれる糖分の多くがアルコールに分解されてしまう前に発酵を止めるため、結果としてアルコール分は、5～7度程度に抑えられるため飲み口は甘くなります。

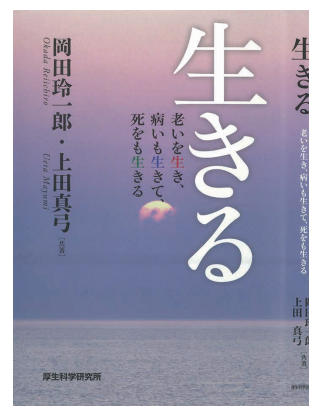
鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



『生きる』

著者

社会医療研究所 岡田玲一郎所長
高知ハビリテーリングセンター
上田真弓センター長



岡田玲一郎先生から思いも寄らぬお言葉をいただき、この度『生きる』が完成しました。改めて、今の私がこうして生きていられることの喜びと感謝を実感する一冊となりました。うえた まゆみ

● 人の動き 敬称略 ●

○人事異動

●看護部●

◆ 7月16日付 森田ゆき・リハ病院2階病棟西→リハ病院3階病棟西

◆ 8月1日付 川久保茉史花・本館6階A病棟→リハ病院2階病棟東／渡邊のぞみ・リハ病院2階病棟西→リハ病院2階病棟東／川村加恵・リハ病院2階病棟東→リハ病院2階病棟西／高橋義典・リハ病院3階病棟東→リハ病院2階病棟西／江崎絵美主任・リハ病院2階病棟西→リハ病院3階病棟東／澤田みさ・リハ病院3階病棟西→リハ病院3階病棟東／和田幸恵・リハ病院3階病棟東→リハ病院3階病棟西／伊藤莉菜・リハ病院4階病棟東→リハ病院3階病棟西／横山和佳・リハ病院4階病棟西→リハ病院4階病棟東／田中恵美主任・リハ病院3階病棟西→リハ病院4階病棟西／岩田千鶴・リハ病院3階病棟西→オルソリハ病院6階病棟

◆ 8月7日付 川久保茉史花・リハ病院

2015年7月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	19,162人
新入院患者数	939人
退院患者数	925人

近森病院（急性期）

平均在院日数	13.53日
地域医療支援病院紹介率	60.27%
地域医療支援病院逆紹介率	122.96%
救急車搬入件数	524件
うち入院件数	240件
手術件数	477件
うち手術室実施	335件
うち全身麻酔件数	176件

● 2015年7月 県外出張件数 ●

件数 90件 延べ人数 155人

図書室便り（2015年7月受入分）

- 急性腹症診療ガイドライン 2015 / 急性腹症診療ガイドライン出版委員会（編）
- 図説足の臨床改訂 3版 / 田中康仁（他編）
- プロメテウス解剖学アトラス頭頸部 / 神経解剖第2版 / Michael Schünke（他著）、天野修（他訳）
- プロメテウス解剖学アトラス胸部 / 腹部・骨盤部第2版 / Michael Schünke（他著）、青山裕彦（他訳）
- プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論 / 運動器系第2版 / Michael Schünke（他著）、足立和隆（他訳）
- ベイツ診察法第2版 / リン・S. ピックリー（他著）、福井次矢（他監修）
- 聞く技術答えは患者の中にある第2版 / マーク・ヘンダーソン（他編）、山

編集室通信

最近、あちこちで火山活動や四国周辺でも地震が発生し、今後起こるとされる南海トラフ巨大地震も身近に恐怖を感じて来ました。地震の発生を防ぐことは出来ませんが、被害は最小限にすることはできます。

9月は防災月間です。事前の備えを怠らず、防災訓練に参加し地震への備えをしておきましょう。 和

内豊明（監訳）

- 細胞診ガイドライン 4 2015 年版呼吸器・胸腺・体腔液・リンパ節 / 日本臨床細胞学会（編）
- 骨髓疾患診断アトラス血球形態と骨髓病理 / 宮内潤（他編）
- AACN(米国クリティカルケア看護師協会)クリティカルケア看護マニュアル原著第5版 / デブラ・J・リン・マッカーレ・ウィガン（他編）
- 集中ケアの「質」を考える ICU ナースのためのクリニカル・インディケーター / 卯野木健
- 走り続ける介護保険今とこれから 2025 年をめざして医療・介護のしくみはこう変わる / 木村隆次（著）

《視聴覚資料》

- Audio-Visual Journal of JUA Vol.21 No.3 / 日本泌尿器科学会（企画・監修）

陽気で気さくで エネルギーッシュ

感謝と「反省」の日々

自分がこうだと思ったら、その方向に脇目もふらず突き進むところがあり、周りのスタッフや、家族にさえも迷惑をかけている。振り回すことが多い。時折、ふとそのことに気づいて申し訳なく思い、また、有難いとも思う。

現在の自分の姿は、以上のようなものだろうと、「振り回し」を自覚し、反省もするが、またまっしぐらな日々が続くのだろう。西井部長はいま仕事に面白くてたまらないのだ。手術もやりたくてたまらない。

自分がやりたいと思うことを仕事に選び、そこにはワクワクするような「気づき」があり、その気づきが新たな気づきのヒントにもなるという好循環のなかにいる。だから、全力投球できるのも充実感も当然ではあろうが、そもそもを振り返れば高校時代に行き着くようだ。

教科書より役立つヒント満載

大好きな先輩がラグビー部から自治医科大学に進み、自分もその方向に脇目もふらず突き進む。大学のラグビー部はたまたま東日本医科学生総合体育大会十連覇を達成するなど一流のクラブで、やるからには一流を目指して頑張りたい部長は、やはりそのまま突き進む。卒業、就職後、影響を強く受けた最初の上司は長野健治先生。その長野先生は衣笠清人統括部長の師匠でもあり、それが近森病院への就職にも繋がる。衣笠部長とは目指す方向で共感できる部分が多く、とても感謝しているし、それがそのまま仕事の喜びにも繋がっているという。

さらに、多くの患者さんと出会い、向き合うことで多くのことを学べたことへの感謝の気持ちが大きいし、その思いがずっと続いて今日がある。患者さんの訴えは、どんな教科書よりも仕事に役立つヒントが満載なのだ。

こんな風な毎日だから、およそストレスとは縁遠い。だいいち、「したい

ことはしたい。だから、やれるようにやるだけ」なのだ単純明快。肉体的な疲労は眠れば回復するのだから、精神的な疲労を溜めないような行動を常に意識しているのだそう。こんな西井部長の考え方は周りのスタッフにはすごく伝わりやすいだろうし、この単純明快さが部長を特徴づけてもいるようだ。

ラグビーで肉体的には限界とも思えるきつい練習を繰り返したことが、結局いまの肉体的にはギリギリでも、その先の達成感をイメージして頑張れる生活に繋がっているようでもある。結果が出たときの痺れるような達成感はクセにもなる。ある意味、これが全ての行動の出発点であり帰着点ともいえるようだ。

改めて、 クリニカルパスの目的

整形外科の手術や治療は「元に戻す」のが基本という考え方が一般的だろうが、それよりむしろ機能回復を図るという考え方に、部長はいま傾いている。色々な勉強会に出るなかでそれに気づき、手術中に実感し、患者さんの回復具合にどう影響するか身を以て感じる部分が多く、以来、手術のことが頭から離れない感覚になったようだ。

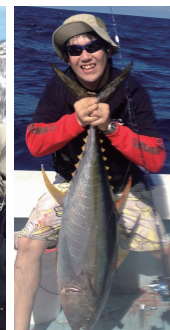
スタッフには、「西井部長は寝ないヒト！(笑)」という印象があるらしい。それほどに常にハイテンションでエネルギーッシュな印象を与えるのと、この「手術のことが頭から離れない」のは関係があるのかも知れない。

部長としての仕事、外来、病棟、手術、学会の社会保険委員、外保連手術委員としての活動、インストラクターなど。目まぐるしいこれらの仕事以外、いまクリニカルパス委員会委員長として、マニュアルを作成し、用語のマスター化にも取り組んでいる。特殊な治療であってもパスに当てはめられるようになればそれが標準的になり、治療の時間を減らせる。時間をかける治療と、



▼毎年恒例のハチ北雪山ツアー（今年3月）
後列左端が西井部長

▼沖縄にてCFFC（近森ファン・フィッシングクラブ）



サラッとパスに当てはめられる治療を分けることで、特殊な治療により時間がかけられるようになる。だからパスの数を増やしていきたいのだという。

こんな風に部長のやりたいことは次々広がり、かつて長野先生に習い、衣笠部長とも一緒に行っていた釣りは当然見合わせ（笑）の、慌ただしい毎日が続いている。

職員の子ども対象

第5回 病院体験ツアーを開催

医療に対する興味へと

土佐のはちきん気質を反映してか、はたまた、男の子の草食化の現れか、今回の参加者は17名全員が女の子でした。おぼろげな進路も想像がつかない中学1年生から、進むべき道が定まりつつある高校3年生まで、県外からも2名が参加してくれました。はじめはここもとないところもあったようですが、概ね楽しく過ごしてくれたようです。実際の臨床の現場でさま

近森病院循環器内科部長 山本 哲史

ざまな職種に触れ、医療に対する認識も変わり、興味へと華めいてくれたことでしょう。

お子さんたちと院内を巡り、また新たな発見をし、私にとっても思いのほか楽しい時間でした。次回は、元気な男の子たちの参加も心待ちにしております。

やまもと さとし



▲ERで心肺蘇生



▲循環器内科でカテーテル挿入



▲整形外科でボルトを使って骨を固定中



▲臨床検査部で血液型を判定



▲腹腔鏡の操作体験



▲手術の方法を体験



▲神経のはたらきを勉強中



▲筋肉の動きを確かめながらリハビリ体験



▲これもリハビリ、片手でつめが切れるかな？



▲聴診器でお腹の音を聞いてみよう



▲臨床工学部で人工呼吸器を装着



▲薬剤部で薬の調査に挑戦

